

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	18	—	事業名	防犯事業	担当部課	くらし文化部安心安全課
------	----	---	-----	------	------	-------------

基本情報	総合計画	基本方針	3	人がいきいきとつながるまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	2	地域の防犯力を高める	款	2	総務費
		施策の進め方	1	地域防犯力の向上	項	1	総務管理費
	まちづくり行程表	フラッグ	F2	「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～	目	13	防犯費
		政策分類	6	地域の安心安全をみんなでつくる	大事業	2	防犯事業
	その他(関係法令、要綱等)	長久手市安全で安心なまちづくり条例					
事業開始の背景、経緯等	愛知県の刑法犯認知件数は、平成6年と比べて平成15年には倍増するなど治安の悪化が心配されたため、平成16年に、愛知県安全なまちづくり条例が制定された。市としても市、市民、事業者の責務や取り組むべき施策の基本事項を定め、三位一体となって安全で安心して暮らせる社会を実現させることを目的とし、事業に取り組んでいる。						

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) ①街頭活動やキャンペーンの実施、児童、高齢者及び市民を対象とした防犯教室の開催等により、市民の防犯意識の啓発、地域の絆づくりを推進する。 ②地域の自主防犯ボランティア団体の設立支援、育成を行い、地域防犯を推進する。					
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市民、自主防犯団体、自治会等					
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 防犯意識を高め犯罪のないまちを目指す。					
	事業を構成する事務事業	① 防犯対策事業	現状維持	④			
	② 自主防犯活動支援事業	現状維持	⑤				
	③ 防犯啓発事業	現状維持	⑥				

コスト推移	項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	事業費(A)	千円	決算	予算			4,485	7,115
決算						4,632	6,488	
人件費(B)	千円	決算			4,582	4,583		
総コスト(A)+(B)	千円	決算			9,214	11,071		

成果推移	成果指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	A 刑法犯認知件数	件	目標	950	816	790	584	488
			実績	885	900	648	542	
	B		目標					
			実績					
C		目標						
		実績						
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 市内で発生した刑法犯の認知件数(約10%の減少を目指す)								
B								
C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 愛知県内では、高齢者が被害に遭う特殊詐欺が多発している。
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 刑法犯が17%減少し、刑法犯認知件数が設定した目標数を下回った。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 総数では減少傾向であるが、犯罪種別でみると住宅対象侵入盗が増加した小学校区もあり、引き続き犯罪発生状況に応じた啓発活動を実施していく必要がある。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) より多くの市民に周知できるような啓発方法を模索していく。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成30年度までに、刑法犯認知件数を450件未満にする。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		防犯事業										
番号	①	事務事業名	防犯対策事業		款	2	項	1	目	13	大	2	中	1
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成16年度		終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	防犯協会の運営、愛知地区防犯協会連合会への助成を行う。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	防犯意識を高め、犯罪の少ないまちを目指す。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			1,280	810	978
		決算			1,374	792	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
助成額	千円	目標	700	700	700	700	870
		実績	700	700	700	700	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

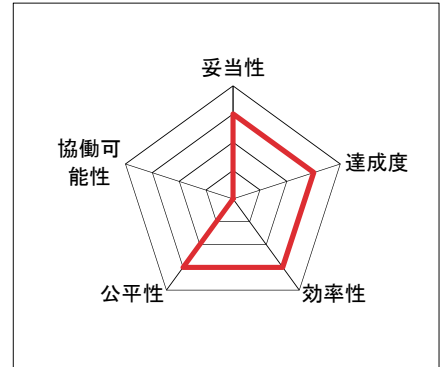
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
過去4年間は、助成額の算定に変更なし。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
今後も防犯意識向上の啓発のため、継続して行う。
(何をどのような状態に改善したのか)
愛知地区防犯協会連合会と協力し、防犯啓発活動を行った。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	—



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
愛知地区防犯協会から提供していただいた防犯啓発グッズで啓発活動を行った。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
愛知地区防犯協会から、より多くの防犯啓発グッズの提供が受けられるような働きかけが必要。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
今後も防犯意識向上の啓発のため、継続して行う。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		防犯事業									
番号	②	事務事業名	自主防犯活動支援事業	款	2	項	1	目	13	大事業	2	中事業	2
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成16年度	終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 地域の自主防犯ボランティア団体の設立支援、育成を行う。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 自主防犯ボランティア団体を支援することにより、防犯活動を活発にし犯罪のないまちを目指す。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			2,634	5,484	3,434
		決算			2,573	4,723	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
自主防犯ボランティア団体数	団体数	目標	23	26	27	27	27
		実績	25	26	26	26	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

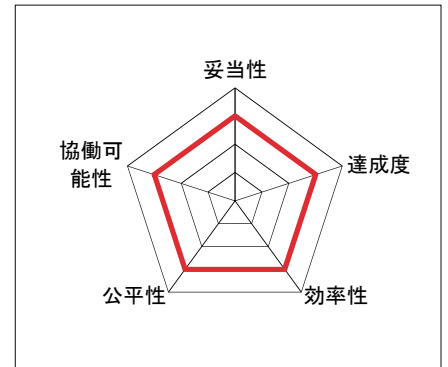
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 自主防犯ボランティア団体の高齢化により、団体の存続に影響が出始めている。
--

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント> 今後は、自主防犯ボランティアの意見交換の場を設けることや防犯ボランティアリーダーを担う人材の育成などを実施していきたい。
(何をどのような状態に改善したのか) 愛知県警察本部主催の、防犯ボランティアリーダー養成講座を長久手市で開催していただき、防犯ボランティアリーダーを担う人材の育成を行った。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど) 新たな自主防犯ボランティア団体の設立が1団体あった。

【ウィークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど) ボランティア活動者の高齢化により、活動を終了した団体が1団体あった。
--

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など) 自主防犯ボランティア活動が活発になってから10年が経過し、構成員の高齢化による活動の衰退が始まりつつある。今後は後継者の発掘などが課題である。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		防犯事業										
番号	③	事務事業名	防犯啓発事業		款	2	項	1	目	13	大	2	中	3
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成16年度		終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	街頭活動やキャンペーンの実施、児童、高齢者、市民を対象とした防犯教室を開催する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	防犯意識を高め犯罪のないまちを目指す。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			571	821	821
		決算			685	973	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
防犯講習会回数	回	目標	—	13	14	18	
		実績	—	14	18	18	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

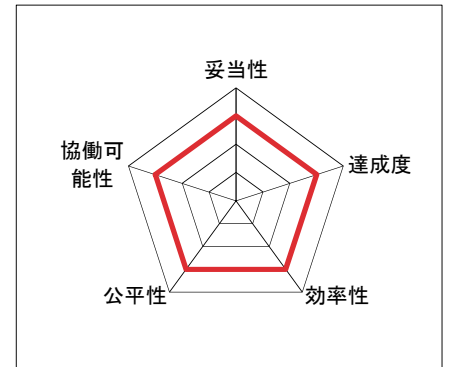
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
市内でも、市役所職員を騙る特殊詐欺電話の情報が多数寄せられた。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
講習会メニューの充実や実施していない自治会等に対する啓発方法の検討が必要である。
(何をどのような状態に改善したのか)
市政協力員会議で、自治会長に防犯講習会開催の働きかけを行った。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
特殊詐欺電話の多発を受け、警察と連携し、緊急で啓発キャンペーンなどを実施することができた。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
犯罪情勢の変化に合わせた、迅速な啓発活動を行う必要があるが、啓発資材が間に合わないことがあった。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
特に高齢者の方が特殊詐欺の被害に遭われていることから、高齢者の方への啓発を行いたいと考えている。しかし、市の行事に参加できない高齢者の方も多く、その方々への啓発方法を検討する。